

第1回 府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

1. 日時

平成27年7月22日(水) 13:30～15:50

2. 場所

安芸府中生涯学習センター くすのきプラザ 1階 ギャラリー

3. 出席委員

- 【産】 葦丸 勝子 委員 府中町商工会 副会長
(有限会社柳ヶ丘住宅 代表取締役)
- 【官】 木村 洋 委員 広島県地域政策局地域力創造課長
- 【学】 上之園 公子 委員 比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科 教授
- 【金】 松村 清治 委員 株式会社広島銀行安芸府中支店長
- 【言】 益村 泉月珠 委員 広島テレビ放送株式会社編成局コンテンツビジネス部
クロスメディアプロデューサー
- 【住】 新宅 祐也 委員 府中児童センターバンビーズ センター長
- 【住】 田中 宏光 委員 府中町まちづくり推進懇話会委員
(元緑ヶ丘中学校 PTA 会長、元青少年問題協議会委員)
- 【住】 松本 真奈美 委員 府中町 PTA 連絡協議会 会長

※「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」(平成27年6月30日閣議決定)の「産官学金労言」の各分野の該当順。
冒頭括弧書きは該当分野。住民代表は五十音順。

4. 欠席委員

- 【産労】 堂河内 克也 委員 ゆうゆうタウン商店街商店者代表
(セブンイレブン安芸府中本町5丁目店オーナー)

5. 町出席者

和多利町長、地下地方創生担当部長、(事務局)井上企画課長、松岡主査、奥田主任技師

6. 傍聴人

26人(うち委員随員2人)

7. 次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ 府中町長 和多利 義之
- (3) 委員の紹介
- (4) まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- (5) まち・ひと・しごと創生に関する取組紹介
- (6) 意見交換
- (7) 閉会

8. 議 事

●まち・ひと・しごと創生総合戦略について

地方創生担当部長から、地方創生の概要、府中町の現状および府中町人口ビジョンと総合戦略の方向性に係る説明が行われた。(資料1～3)

●まち・ひと・しごと創生に関する取組紹介

松村委員から、株式会社広島銀行における取組の紹介が行われた。(資料4)

益村委員から、広島テレビ放送株式会社における取組の紹介が行われた。(資料5)

【町長あいさつ 内容】

第1回府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議の開催に当たりまして、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、当会議委員へ就任、並びに本日の会議へのご出席を賜り、誠にありがとうございます。改めましてお礼申し上げます。

さてご承知のとおり、全国的に進む少子高齢化に的確に対応した人口減少対策や東京一極集中是正などを国全体で進めるべく、国は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生を強力に推進しております。そうした中で、地方にも地方版総合戦略を策定するよう要請があり、当町においても、まちの特性を踏まえた、当町版の「総合戦略」を策定していくこととしております。

この「総合戦略」の策定にあたっては、国からは産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働関係者、マスメディアの「産官学金労言」と住民代表の参加、協力を得て、施策の立案、推進を図ることが望ましいとされており、本日、この会議を設置、開催させていただいています。

この後担当部長より、詳しく、現在考えております当町の目指すべき方向性などご説明をさせて頂く予定としております。

つきましては、是非とも委員の皆様からの貴重なご意見、アイデアを頂き、他の市町村とは一味違う、府中町に合った「総合戦略」を策定し、地方創生を進めていきたいと考えておりますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

【意見交換 内容】

●委員1

府中町の賃貸物件は、広島市のベッドタウンとして人気があり、府中町に住みたい人はたくさんいる。その理由は、広島市に近く利便性が良い、学校も適正に配置されており、イオンモールもあるためだと思う。また、府中町は完全な都市ではなく、少し田舎が残っており、ほっとできる点も府中町の良さなのではないか。ただ、商業としての施設利用のために賃貸をされる需要は少なく、特に2階以上はほとんどないことが、これから人口を増やしていく上でのひとつの課題である。

文化の面で言えば、他の市町に比べると弱いと感じる。コンサート等ができる立派なホールのような施設があれば、憩いの場として府中町の人気上がるのではないかと思う。

向洋駅周辺については、北側の整備がほぼ終わり、これからは南側へ入っていくが、今後どのように発展していくか楽しみである。

●委員 2

他市町の地方創生にも携わっているが、府中町は現状をしっかりと捉えられており、第1回目の会議において「子育て世代が居住を選択するまち」という方向性を明確に示されている所は、他にはなかなかなく、素晴らしいことだと思う。

将来人口について 2060 年に人口 5 万人を維持するとあり、少し強気な印象を受けたが、府中町の現状の出生率などを踏まえると妥当なのかなと思う。人口減少という観点からすると、データ上では、府中町は他の市町に比べると有利な状況となっている中で、もう少し踏み込んで分析するべきでないか。一人あたりの公園面積は低く、一見子育てにはマイナスイメージがあるが、全国平均より高い出生率は何に支えられているのか、強みになっているのは何なのかを調べてみたらどうか。

将来人口が減少していく人口ビジョンを示す自治体が多い中で、府中町は現状維持を示しており、ぜひこのままやっていただきたい。ただし、ある県の人口ビジョンでは、将来人口があまりにも低いため、県議会で少しもめた経緯がある。また一方で、ある町の人口ビジョンでは、将来人口があまりにも高すぎて現実離れしたものになっていると、住民から疑義を寄せられた町もある。いずれにしても、府中町は出生率が将来的には上昇することを掲げているため、町民のどういう希望が叶えられればこれぐらい上がる、どういう施策をすればこれぐらい上がるといった整理が必要である。理屈で整理することは難しいと思うため、データやアンケートによって具体的に示すことにより、この人口ビジョンの実効性が高まると思う。

資料 2 の 5 ページの広島都市圏の年代別転入・転出データを見ると、若い世代の転入が転出に比べて多い一方で、45～59 歳の方は転出超過となっている。これは、若い世代の方々が、結婚等により新しい生活を始めるにあたって、生活条件の良い場所で賃貸住宅に住み、ある程度子育てをされた方々が郊外の住宅を求めて外に出られる傾向があるのではないかと考えられる。

子育て世代にターゲットを絞るのはいいが、その世代の絶対数は減少しており、その世代もいずれは年を取る。人口 5 万人維持を掲げるには、子育て世代だけではなく、子育てを終えられた方々の転出対策として、空き家の有効活用など、住宅をしっかりと供給していくことにより、持ち家の比率を上げていくことも必要ではないかと思う。

●委員 3

私自信、元々は広島市に住んでいたが、永住地を決めるにあたって、ベッドタウンではなく、ホームタウンとして府中町を選び、現在住んでいる。府中町はどこを歩いていても全ての世代の人が見られるとても魅力のあるまちだと思う。

これからは、府中町の魅力の活用、人の活用を推し進めたらいいのではないか。府中町には水分峡や埃宮、空城山公園などの魅力がたくさんあるが、あまり知られてない。そのため、ゼロから新しいものを創り出すのではなく、今あるものを将来の姿を考えながら活かして発信するべきである。今、府中町が持っている良さを洗い出して発信することには、お金はあまり掛からないのではないかと思う。

以前、府中北小学校に 2 年間勤めていた時期があり、その時に感じたのは、府中町の給食はと

でもおいしいということである。それぞれの学校に栄養士がいて、献立も各学校で作成している。また、各学校間や町教育委員会との連携も非常に良く、特別支援においてもきめ細かく対応され、地域やPTAとの強い繋がりも感じた。しかし、これらの魅力を発信できていないため、町外の方に知られていないのがもったいない。府中町に住めばこういう良いことがあるといった魅力をもっと伝えていくべきである。

人の活用については、子育てに関する地域活動において、もちろん地域の方のボランティアも必要であるが、大学生のボランティアを活用してはどうか。自分のスキルアップのため、就職して現場に出る前に、地域の人たちとふれあいたいと思っている学生たちが集まってボランティアを行っている。このような学生によるボランティアのネットワークを作って、若い人たちを活用し、活動を広げていけたら良いのではないか。

●委員4

人口ビジョンにおいて2060年に人口5万人を維持することや、基本的方向性として子育て世代が居住を選択するまちを目指すことについて賛成である。いかにして府中町に人を呼び込んでいくかが大切であり、安心安全や住みよいまちなど府中町が優れている点をPRし、認知度を高めて流入を図っていくことが必要である。

府中町の魅力は、広島市に隣接し、日本一人口の多い町であるということ、JRの駅や都市高速道路のインターチェンジ、県内有数の大規模施設があり、都市機能が充実していること、またマツダ(株)本社の所在地であり、自動車産業の従事者も多いこと、待機児童がゼロということが挙げられる。

府中町の課題としては、昭和30年代中旬に作られた団地が多く、高齢化や空き家も目立ちつつあるということ、平地が少なく平地に住もうと思えば高額になってしまうということがあり、このような状況の中で、年間30世帯の増加を目指すのであれば、住宅環境の整備が必要となる。空き家等の既存住宅ストックを有効活用し、イノベーションによって安い費用で家を持つことができれば、空き家が減り、若い人が増え、そこにコミュニティも生まれ、安心・安全にも繋がる。人口5万人を維持したいのであれば、そういった住宅環境の整備も必要である。

●委員5

子育て世代のメディアについて言うと、共感・共有が大好きな世代である。子育て世代は、インターネットに非常に強く、共感・共有するために口コミなどで人に紹介しようという精神がとても旺盛で、LINEやFacebookなどのSNSを非常に有効に使っている。インターネットを活用するポイントの1点目として、府中町の魅力をどんどんインターネットで発信して共有されるようなフレームが必要である。2点目としては、伝え方で、例えばある課題をどのようにして解決したかをインターネット上で伝えて共感を得るような工夫も必要である。このフレームと伝え方により、インターネットを攻略してみてもいいと思う。

●委員6

府中町には、児童センターがあるが、他の市町で設置しているところは少なく、府中町の児童センターバンビーズは、年間約4万人を超える方が利用している。子どもや母親と接する中で特にニーズの高かった医療マップと公園マップを作成したが、両方とももう在庫はない状態である。

また、小学生が児童センターにたくさん来てくれているが、遊びが十分に出来なくなっている現状がある。近隣には公園がたくさんあるが、親子がたくさんいて遊べないという意見もあれば、小学生が走り回っていて、安心して子どもを遊ばせられないという意見もある。公園の設備管理が行き届いていないという声も聞く。そのような小さなことを整理していくことも重要である。

児童センターが特に力を入れているのが中高生で、様々な地域の方々とふれあったり、自分で企画を実施したり、課題を自分で解決していく、このような中高生が主体的に活動できる場が、まだまだ少ないのではないかと思う。

地域の方と連携しながら、学生ボランティアや子育てサークル、中高生の活動など、世代や活動の掛け合わせで相乗効果として大きくしていけば、活性化に繋がるのではないかと思う。

●委員 7

府中町には結婚を機に住んでいるが、府中町の文化財は入り組んだ場所にあり、みんなあまり知らない。そういうことを知ることで府中町にもっと愛着が湧くのではないか。府中町は人が財産となっており、地域の子どもは地域の人で育て、人のつながり、横のつながりが大きく、良い町だと思う。各団体等の横のネットワークをさらに広げていけば、公園巡視などの地域活動において有効ではないかと思う。

●委員 8

子育て世代を呼び込むことは大賛成である。現在、府中町の全小学校でボランティアによる授業前の読み聞かせをしており、先生たちからは子どもが穏やかになり、スムーズに授業に入れると好評である。放課後子ども教室では、大学生のボランティアが来て子どもたちを見てくれており、今年から安芸府中高校の生徒もボランティアで来てくれて、とても助かるし、良いことだと思う。

他の市町の人へは、府中町は給食がおいしい、ゴミの選別がなくいい、子育て支援が充実しているなど、府中町の良い所を紹介している。今は、学校からのプリントさえも親元に届かないような家庭もあり、インターネットやメールでの情報をお母さんたちは見ている。府中町の良さもメールなどで配信していけば、若いお母さんたちに有効だと思う。子どもたちの安全を地域の方で見守っていただいているが、保護者自体ができていないため、こういう情報発信もしていけば、もっと理解や協力が得られるのではないかと思う。

提案とまでは言わないが、星空観察会をしてみたらどうか。明るいと星空は見えないため、数時間だけでも、家の電気を消し、家族で空を見上げてもらうことで会話が弾むのではないか。また、子どもたちは夏休みの自由研究に困っているため、町内の事業者と子どもが自由研究を一緒に行うことにより、子どもがその仕事に憧れ、府中町で働くようになれば、素晴らしいことだと思う。

●委員 9

府中町の将来人口と総合戦略の方向性については、町の提示したもので問題ないと考えている。

その他に個人的な意見として、鶴江・本町・大須地区の一部歩道がインターロッキングブロックで改良されているが、自分が経営しているセブンイレブンの手前で終わっており、連続性や統一感がない。インターロッキングブロックとまでは言わないが、カラー舗装にするなど、連続性

を持たせてはどうか。せめて、ゆうゆうタウン商店街は統一してほしい。

また、つばきバスについて、もう少しルートの拡充を考えてみてはどうか。

【町長 閉会のあいさつ 内容】

今回、第1回目の有識者会議ということで、産官学金労言、各界の方々の貴重な多くのご意見を聞かせていただき、非常に有意義に感じさせていただいた次第です。初回のため、側面から府中町を見ていただいた方もいらっしゃるかもしれませんが、今後、府中町のことをよく知っていただいて、さらに良いご意見をいただけるのではないかと、こういう期待感を感じております。

2011年から日本全体で人口が減少している中で、府中町の人口減少は少し鈍いのではないかと話がありましたが、今のまま何もせず放っておけば、条件の良い府中町でもかなり減少するため、元気でみんなが暮らし良いまちと感じていただけるまちづくりを進めていかなければならないと思っております。今後も、今まで行ってきたことに加え、さらに重点的に子育てし易いまちを目指すために何をしたらよいか、皆さんに良い知恵をいただきながら、素晴らしい計画をつくり、末永い元気なまち府中町となるよう、今後とも皆さんのご協力・ご意見をいただきますようお願い申し上げます。